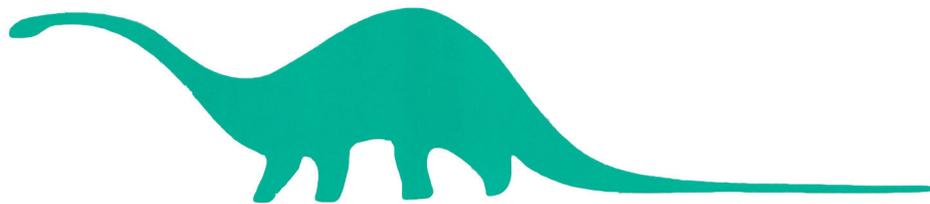


C.L. information

～Vol.3(8月号)2011～



今月号の特集: クログキブリについて
先月の食中毒情報

株式会社コントロール・ラボ
<http://controllabo.co.jp>

クロゴキブリについて

一般家屋から飲食店、食品工場、商業施設、その他様々な場所で見られて、問題になりやすい衛生害虫であるゴキブリ。私たちペストコントロール業務にたずさわる以上は避けて通れない、必ず関わる虫であります。その中でもクロゴキブリ *Periplaneta fuliginosa* という種類は、一般家屋でも見られますので、おそらく多くの人にとって馴染みのある虫ではありますが、嫌われる虫の代表格でもあります。



夏季になると活発に動く為、ゴキブリを家や職場の中から追い出したい、つまり決別したいとお思いであれば、ゴキブリについて、今より理解を含めなければ、難しいと言わざるを得ません。

そこで今回の C.L.information では、クロゴキブリについてお話しさせていただきます。

クロゴキブリってどんな虫？

もともとゴキブリの仲間は熱帯地域の森林などを原産地とし、屋外では落ち葉の下や朽ち木の中に生息している種がほとんどです。ゆえに、室内の暖かくて湿気の多い環境を好んで潜み、夜間になるとエサを求めて住処から出て徘徊する生活を送っています。全世界には約 4000 種類、日本でも 50 種類以上いると言われ、そのなかでいわゆる屋内で害虫となるのは、全世界で 30 種ほどといわれています。大部分は人間と関わらない熱帯の森などで過ごしています。



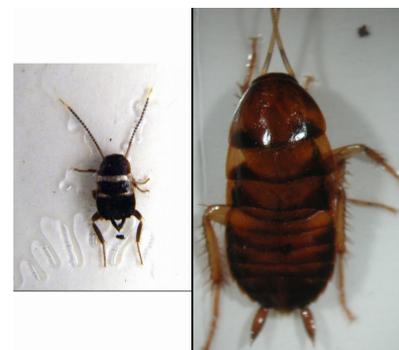
クロゴキブリの成虫

クロゴキブリは成虫の体長が 30mm 前後で、黒光りした体色の大型種です。活動期は主に 5～10 月で、1cm 程の隙間を好んで入り込みます。以前は関東より南の地域に分布しているとされていましたが、北海道、本州、四国、九州まで分布が確認されています。寒さに比較的強く、暖房がなくても冬を越すことが可能です。

クロゴキブリは不完全変態の昆虫で、蛹の時期は無く、幼虫と成虫の体のつくりが非常によく似ています。しかし、成長に伴って、体色が変化していきます。

卵から孵化したての幼虫は、黒い体に白い点とラインがあります。ある程度成長すると、明るい赤茶色っぽい体色になります。このくらいになると、成虫と大きさが近いので、別の種類のゴキブリと思われる方も多いですが、同じ種類のクロゴキブリになのです。

食性は雑食性で、屋内に落ちている小さな食品のカスはもちろん、床に落ちた人間のフケも食べます。また、腐った落ち葉や古い書物の紙や糊も食べたりします。

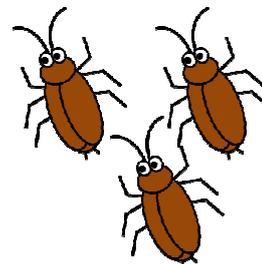


孵化したての幼虫(左)と成長した幼虫(右)

クロゴキブリってどんなところにいるの

屋内でクロゴキブリが生息するうえで最も重要なことは以下の4点です。

- ・水が多い場所 → 台所・風呂場などの水回り
- ・隙間が多い場所 → 戸棚や家具の下、段ボール
- ・暖かい場所 → 冷蔵庫や家電の裏
- ・屋外とつながっている場所 → 玄関周辺



・水が多い場所 → 台所・風呂場などの水回り

クロゴキブリを台所で最もよく見かけるのは、水分や適度な隙間があり、機械類も近くにあるため温度が高くなるからです。クロゴキブリは飢えには比較的強いものの、渴きには非常に弱いという研究データがあり、生存にとって最も重要な条件は水分があることだと考えられています。

・隙間が多い場所 → 戸棚や家具の下、段ボール

クロゴキブリは狭い隙間を好みますが、特によく好むのが8mmから13mmの隙間です。家具や什器、備品などを壁にほぼ隙間なく置くことによって、こうした僅かな隙間が生じてしまい、クロゴキブリが生息してしまふことがあります。壁との間に生じる隙間の他に、コピー機やパソコンなどの構造が複雑で分解することがほとんど無いような機械類の中に棲息していたという事例もあるようです。また、そうした施設内に生じる隙間以外にも段ボールの隙間に棲息していることもあります。段ボールは多層構造となっており、その層の間にはクッション性を高めるため、やや狭い隙間が生じています。この狭い隙間は成虫が入り込むにはやや狭い隙間ですが、幼虫が入るには十分なスペースとなっています。幼虫が入り込んでいる可能性があることから、クロゴキブリを外部から持ち込んでしまう要因となることもあります。そのため、不要となった段ボール類は保管せず、極力早めに処分することが重要になります。

・暖かい場所 → 冷蔵庫や家電の裏

クロゴキブリは外気温が10～36℃程度までの範囲で活動し、特に25～30℃で一番活発に活動します。36℃より高い温度では乾燥してしまい、生存が難しくなります。また、ゴキブリ類は熱帯や亜熱帯が原産であるため、低温を苦手としています。そのため、屋内に定着する場合、常に発熱している家電の裏側や内部に侵入し、そこを生息場所にします。特に冷蔵庫の裏や内部は、一般家屋や食品工場に共通して、クロゴキブリが良く潜んでいるポイントになります。

・屋外とつながっている場所 → 玄関周辺

クロゴキブリの成虫は低い温度では死んでしまう事がありますが、幼虫は気温が低くなると休眠して越冬します。上記のような低温への対応が異なるのは、クロゴキブリが屋内以外にも生息場所がある半野外性の昆虫で、環境に対する適応能力が比較的高いからだと考えられます。クロゴキブリは家屋や工場などの施設内以外では、施設周辺にある植え込みや植木鉢の下、下水管や排水溝などにも生息しています。そのため、施設内で見かける個体は必ずしも施設内で繁殖しているのではなく、その周辺で繁殖している個体が玄関などの外部と通じている場所から侵入している可能性もあり、また、玄関の周辺に生息していることも良くあります。

誰にでもできるクロゴキブリ対策の基礎

クロゴキブリが屋内で見られる場合、その対策として駆除業者が行う専門的な駆除作業（薬剤散布と生息調査）は有効です。しかしその有効な対策も、クロゴキブリが生息・繁殖しやすい状態では、効果が激減してしまいます。先述させていただきましたように、クロゴキブリは狭い隙間を好みます。このような隙間はクロゴキブリにとって安全な避難場所になってしまいます。

そこで、効果的な駆除を行うには、クロゴキブリの避難場所が無い環境を作ることが重要なのですが、これはそのままクロゴキブリが侵入しにくく、住みつきにくい環境を作ることに通じます。

まずは整理整頓、不要な空き箱やダンボール、古新聞や雑誌をまとめたものが、置きっぱなしになっていませんか？流し台の下に不要な調理器具が放置されていないですか？空きスペースがあるとつい物を置いてしまいがちですが、そのまま放置されていると、物と物の間にゴミが溜まり、クロゴキブリが大好きな隙間ができてしまいます。そこで不要なもの、使わない物を処分して整理します。そのあとに、使うもの、必要なものは、しまう場所、置いておく場所を決めて、整頓します。この整理整頓は、ゴキブリの予防対策の最も基本となる部分で、一般家屋も食品工場などでも共通して有効な対策になります。

次にゴミを無くす、これはいわゆる掃除のことです。床やカーペット、畳に落ちた食べ物のカスなんかは、クロゴキブリの格好のエサになります。家の中の掃除機がけはもちろんのこと、たとえば食事が終わったあとに、テーブルの上のゴミを拾って、クロスで油汚れをふき取り、さらに周りの床に落ちたゴミを拾う。食後の団欒の前に2、3分ばかり行っていただくだけで、ゴキブリ対策としてはだいぶ違ってくるでしょう。

そしてゴキブリの大好きな水、家の中の水滴や湿気を無くします。シンクや洗面所、お風呂場などの水滴を拭き取って下さい。また、流し台の下など湿気がこもりがちな場所は、なるべく換気して下さい。

これらの対策を行っていただくだけで、クロゴキブリが侵入しにくく、住みつきにくい環境を作ることができます。ぜひ実行してみてください。

先月の食中毒情報

今月はサルモネラに関しては鶏卵の生食による感染で、1名の方がお亡くなりになっています。サルモネラはニワトリの腸管内に存在し、卵殻の表面に付着しています。卵殻の表面を消毒することによって、付着した菌を殺すことができますが、産卵前に水分や食事制限（栄養過多対策として）などのストレスを受けると、腸管内のサルモネラが卵管まで侵入することがあり、卵内に菌が入り込んで汚染されることがあります。汚染された鶏卵のサルモネラは、健康者であれば問題ないレベルですが、体の免疫力が低下した状態だと、重篤な感染を引き起こすことがあります。十分な加熱を行えば、サルモネラへの感染は防げます。鶏卵の生食には気を付けて下さい。

原因物質	事例	感染者数
サルモネラ	4	82
ノロウイルス	2	67
腸管出血性大腸菌(O103、121、145、157、UT)	6	61
カンピロバクター	5	44
ウエルシュ菌	2	37
その他・不明	12	162

株式会社コントロールラボ

本 社 〒651-1211 神戸市北区小倉台 7丁目1-7 TEL:078-582-3575 FAX:078-582-3576
 阪神事業部 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町 2丁目4-15 TEL:078-858-6801 FAX:078-858-6802
 フリーダイヤル
☎0120-540-643
 URL <http://controllabo.co.jp>

